

部局名	生涯学習部	所属名	図書館	所属長名	遠藤 昌子	電 話	482-3240
-----	-------	-----	-----	------	-------	-----	----------

1. 事務事業の位置付け・概要（P L A N）

コード	4036		事務事業名称	図書館運営事業					短縮コード	経常	4036	臨時	
予算区分	会計	01	一般会計	款	10	教育費	項	05	社会教育費	目	03	図書館費	
区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務 ☐ その他				根拠法令等		図書館法・八千代市立図書館設置条例・八千代市立図書館管理運営規則・八千代市図書館協議会運営規則						
事業概要（事務事業を開始したきっかけを含めて記入）													
図書館は、昭和44年に八千代市立図書館が開館し、昭和50年に八千代台図書館が開館、昭和62年に勝田台図書館が開館した。平成8年からは勝田台図書館において電算化業務開始し、平成9年に八千代台図書館の電算化、平成10年には大和田図書館も電算化となり市内3館がネットワークを結ぶことになった。物流便の運行とともに資料の共有化を進めた。平成13年には電算システムの更新により、ホームページの開設やW e b 予約ができるようになり、利用者サービスの向上に努めた。平成16年に緑が丘図書館が開館し、情報化社会に対応したインターネットを活用したサービスを展開し、図書館サービスの向上を図っている。													
事務事業を取り巻く状況の変化 又、今後の変化の推測					総合計画の施策体系	5本の柱（章）	02	人間尊重都市をめざして					
これからの図書館の役割として、情報化社会に対応した新しい取り組みが要求され、文部科学省から「2005年の図書館像」でインターネットを活用した電子図書館像や平成13年に「公共図書館の設置及び運営上の望ましい基準」「子どもの読書活動の推進に関する法律」や平成17年に「文字・活字文化振興法」が制定された。図書館の機能を十分に発揮できるだけの種類及び量の資料整備やITを活用した検索システムの整備やレファレンスサービスの充実、専門的サービスを実施する専門職員を置くことなどを求めている。図書館は子どもから高齢者まで誰もが気軽に利用でき、様々な情報を取得し、学習活動を行い、地域の情報拠点として、従来の貸出中心の図書館から地域や住民にとって暮らしに役立つ図書館としての役割を求められている。						大項目（節）	02	生涯学習					
						中 項 目	02	社会教育					
						小項目（施策）	02	社会教育施設の整備					
						細 項 目	01	公民館・図書館の整備					
実施計画の計画事業													
計画事業の位置付けの有無			☐	計 画 事 業 期 間		～		計 画 事 業 費		千円			

2. 事務事業の目的・指標・実績（D O）

対象 （誰を何を対象にしているのか）	・市内に在住（近隣地域含む）在勤者 ・図書館職員 ・図書館協議会委員 ※千葉県公共図書館協会 日本図書館協会								
手段 （具体的な事務事業のやり方、手順、詳細）	※平成22年度に実際に行ったこと： ・図書館資料の収集、整理、保存 ・図書館資料の貸出、閲覧 ・読書案内及び参考調査による資料・情報提供 ・ホームページや図書館だより、新着図書案内等の広報活動 ・おはなし会や講座などの主催事業の開催 ・学校、保育園、公民館との連携・協力 ・緑が丘図書館の電算機器更新 ・4館分の予算管理、文書処理等の一括管理の実施 ・宅配サービスの実施								
	※平成23年度に計画していること： ・図書館資料の収集、整理、保存 ・図書館資料の閲覧、貸出 ・読書案内及び参考調査による資料・情報提供 ・ホームページや図書館だより、新着図書案内等の広報活動 ・おはなし会や講座などの主催事業の開催 ・学校、保育園、公民館との連携・協力 ・宅配サービスの実施 ・団体貸出・配本サービスの実施								
意図 （何を狙っているのか）	・市民の多様な学習要求に対してニーズを把握し、多様な資料を揃え、情報を提供し、暮らしに役立つ図書館活動を行い、市内図書館のネットワーク化により情報の共有化が進み、ホームページから資料検索や予約ができるなど、情報や資料提供がより明確、迅速になり、図書館利用が身近になる。主催事業を通して、市民の図書館活用を推進する。								
ねらい（上位施策の意図）	入力対象外								
区 分					単位	2 1 年度	2 2 年度		2 3 年度
						実績	計画	実績	計画
対象指標	指標 1	人口	人	192,570	196,000	193,274	196,400		
	指標 2	図書館職員数	人	23	23	23	23		
	指標 3	図書館協議会委員	人	9	9	9	9		
活動指標	指標 1	利用登録者数	人	46,104	47,000	45,042	46,000		
	指標 2	貸出冊数	冊	1,185,232	1,195,000	1,139,572	1,195,000		
	指標 3	蔵書冊数	冊	446,107	450,000	458,402	470,000		
成果指標	指標 1	登録率	%	23.9	23.9	24	24		
	指標 2	市民一人当たりの貸出冊数	冊	6.15	6.2	5.9	6.08		
	指標 3	図書館主催事業参加人数	人	4,571	6,700	5,141	5,300		
上位成果指標	指標 1								
	指標 2								
	指標 3								

コード	4036	事務事業名称	図書館運営事業				所属名	図書館
今後の方向性	⑥この事務事業の今後の方向性を選択し、その詳細について右欄に記入する。	☐ 改革・改善して継続			図書館整備計画に基づき、整備を推進し、既存の図書館が有機的に機能する図書館ネットワーク化を進め、図書館サービスの向上に努める。また、運営事業の予算管理、文書処理を統合し、臨時職員の活用、窓口業務の委託等、効果的、効率的な事業改善を図る。			
		☐ 手法プロセスの改革・改善						
		☐ 事業規模の拡大・縮小						
		☐ 統合・役割見直し						
	☐ その他							
☐ 廃止・休止								
☐ 事業完了								
☒ 現状のまま継続								
	⑦この事務事業の今後の経費・成果の方向性について選択し、右欄に理由を記載する。			経 費			大和田図書館が予算管理、文書処理を統合により、経費及び事務の効率化と図書館サービスの向上を図る。	
				削 減	不 変	増 加		
		成 果	向 上	☐	☐	☐		
			不 変	☐	☒	☐		
			低 下	☐	☐	☐		

この事務事業に対する市民や議会の意見（担当者が把握している意見） ※内部サービス業務の場合は、住民ではなく、サービス利用者、関連部門の意見や実態など									
・中央図書館の整備 ・図書やCDなど多様な資料の充実 ・閲覧室や学習室の拡充 ・図書館から遠い地域での返却場所の確保（ブックポストの設置）									

所属長コメント	市民の生涯学習施設としての役割を果たすため、大和田図書館を総括館として、市内の図書館が一体となり利用者サービスの向上と業務の改善・効率化を図ってきた。今後、平成22年3月に策定された「八千代市中央図書館等整備計画」を具体化し、市民への資料・情報提供、学習の場の提供など施設の整備とサービスの向上に努めていきたい。								
評価調整委員会評価	☐ 改革改善して継続			担当課の評価のとおり、現状のまま継続とする。					
	☐ 手法プロセスの改革・改善								
	☐ 事業規模の拡大・縮小								
	☐ 統合・役割見直し								
	☐ その他								
☐ 廃止・休止									
☐ 事業完了									
☒ 現状のまま継続									